

平成24年第2回定例会
健康福祉病院常任委員会

説明資料

【議案補充説明資料】

◇ 議案なし

【所管事項説明資料】

1 「三重県病院事業 次期中期経営計画（仮称）」《中間案》について

頁数

1

【別冊資料】

三重県病院事業 次期中期経営計画（仮称）《中間案》

平成24年12月11日

病院事業庁

1 「三重県病院事業 次期中期経営計画（仮称）」《中間案》について

1 計画策定の趣旨

病院事業庁では、県立病院に求められている役割・機能等を十分に踏まえつつ、国、県の医療政策の動向や県立病院を取り巻く環境の変化に的確に対応しながら、引き続き病院事業の経営を中期的な観点から計画的に推進し、それぞれの県立病院が県民の皆さんに医療サービスを安定的かつ継続的に提供していくため、「三重県病院事業 次期中期経営計画（仮称）」を策定します。

2 計画期間（本冊 P. 3）

平成25年度から平成27年度までの3年間

3 病院事業のミッション（本冊 P. 4）

現行のミッションをベースに、「県民との協創」と「マグネットホスピタル」の観点を付加して再構成

県民の皆さんや地域に信頼され、かつ医療従事者にとって魅力のある病院づくりを進めながら、良質で満足度の高い医療サービスを実践し、県民の皆さんとともに、生涯にわたって健康な暮らしを続けられる医療環境の実現に貢献します。

4 県立病院の基本理念（本冊 P. 4）

現行の基本理念を継続（一部表現の改定あり）

- ◇ 県民の皆さんと地域の信頼を得る医療を追求します。
- ◇ 患者の皆さんの人権を尊重する医療を追求します。
- ◇ 常に時代や環境を先取りし必要となるサービスを実践します。

5 各病院の計画

（1）こころの医療センター（本冊 P. 5）

■重点的な取組：病院機能の再編・推進

⇒精神医療福祉政策の基本理念「入院医療中心から地域生活中心へ」に基づき、病院機能の再編・推進を継続し、アウトリーチサービスや日中活動支援の充実に向けた取組を展開します。

■主な取組

精神科医療の中核病院としての取組

- ◇ 精神科救急・急性期医療の推進
- ◇ 県全体の医療水準の向上に寄与する研修機会の提供

地域生活支援体制の充実に向けた取組

- ◇ 地域移行支援の体制整備
- ◇ 地域精神保健福祉の連携体制の強化

高度・先進医療の取組

- ◇ 精神科早期介入・予防（YMSC：ユースメンタルサポートセンター）
- ◇ アルコール依存症治療、認知症治療、重度療養患者に対する治療

(2) 一志病院 (本冊 P.13)

■重点的な取組：地域に最適な包括的で全人的な医療の体制づくり

⇒すべての住民が生涯にわたり住み慣れた地域で健康で安心して暮らすためには、保健、医療、福祉が切れ目なく連携した「包括的で全人的な医療」が必要なことから、家庭医療の実績をもとに、家庭医が中心となり、関係機関はもとより住民の皆さんとともに、地域に最適な包括的で全人的な医療の体制づくりに取り組めます。

■主な取組

家庭医を中心とした地域医療の取組

- ◇ 家庭医療
- ◇ 予防医療 (健康診断、がん検診、人間ドック等)
- ◇ 在宅療養 (訪問診療、訪問看護、訪問リハビリ等)
- ◇ 救急医療 (一次救急患者の受入れ)

地域医療を担う人材の教育

- ◇ 家庭医の育成
- ◇ 看護師等の育成、医療従事者の能力向上

家庭医療等に関する研究

- ◇ 家庭医療、地域医療、医療教育に関する研究

その他

- ◇ 休止中の施設活用の検討

(3) 県立病院課 (本冊 P.20)

■重点的な取組：医師、看護師の確保

⇒勤務医にとって魅力のある病院を目指した取組や、看護師を養成する大学等への訪問、広報媒体の活用などにより、医療従事者の確保を図ります。

■主な取組

- ◇ 戦略的な経営の推進
- ◇ 各病院の経営面の改善・支援
- ◇ 志摩病院指定管理者への指導・監督
- ◇ 県立病院改革にかかる取組

6 今後の予定

平成25年度当初予算議論や県保健医療計画の策定状況を踏まえながら、数値目標や財務計画等を追加した「最終案」を取りまとめ、3月の常任委員会に提出したうえで年度内に策定したいと考えています。

【こころの医療センター】 病院機能の再編・推進に伴う病棟機能の再編について

(1) 精神科医療の動向と対応

こころの医療センターが開院した当初は、長期入院患者の治療が中心であり、現在も入院治療が占める割合は高いものの、治療効果も相まって入院患者の在院日数は減少傾向にあります。一方で、外来患者数は年々増加し、通院治療の比重が高くなってきています。

また、国においても、「入院治療中心から地域生活支援中心へ」という今後の精神医療の方向性が示されているところです。

このような状況を踏まえ、あるべき精神科医療の姿をめざして、病院機能の再編を進めているところであり、現在、外来・相談機能の充実を図るため、新外来棟の整備に向けて実施設計に着手するとともに、デイケア・作業療法、アウトリーチ（訪問看護等）等の充実を進めています。

さらに病棟（入院）機能の再編についても併せて取り組むこととします。

(2) 病棟機能の再編に向けた取組

病棟機能再編については、現在、病床（400床）の稼働状況が概ね320床（病床稼働率は約80%）で推移していることも踏まえ次のとおり進めます。また、それに伴う人的資源の再配置等についても適切に行っていきます。

- ・ 病床数を8病棟400床（1病棟は概ね50床）から約50床休床し、7病棟約350床とします。

(3) 今後の予定

現在、入院患者の地域生活への移行や転棟を進めているところであり、平成25年4月を目途に病棟機能の再編がスタートできるよう準備を進めてまいります。

今後も、健全な経営の観点を十分踏まえつつ、引き続き、病院機能の充実と、円滑な機能の再編に向けて取り組んでまいります。

こころの医療センターの患者動向

	平成19年度 (A)	平成23年度 (B)	対比 (B/A)
延べ入院患者数 (人)	125,801	120,149	95.5%
延べ外来患者数 (人)	51,850	62,765	121.1%
訪問看護件数 (件)	2,415	2,948	122.1%
デイケア件数 (件)	9,758	12,425	127.3%
作業療法件数 (件)	29,990	30,772	102.6%

〔一志病院〕 地域に最適な包括的で全人的な医療の体制づくりについて

(1) 一志病院に求められる医療ニーズ

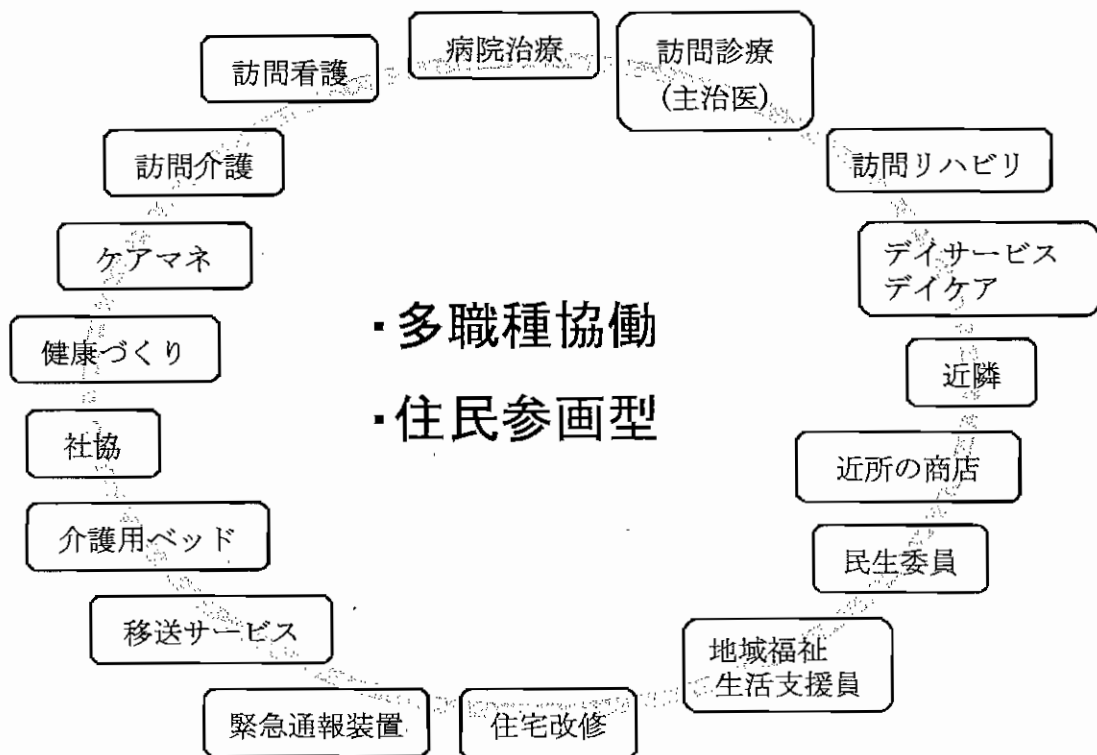
住民の皆さんが、生涯にわたって住み慣れた地域で健康で安心して暮らせる社会を実現するためには、それぞれの地域の実情に応じた、保健・医療・福祉の切れ目ない連携による取組が必要になっています。

(2) 家庭医療の実践と住民参画による包括的で全人的な医療体制の構築

一志病院では、現在、家庭医療を地域に提供するとともに、家庭医の人材育成に取り組んでいます。家庭医療は、臓器単位ではなく全人的に行う医療であり、家庭や職場、地域などの背景も考慮して患者それぞれについて包括的なケアを提供するものです。

包括的なケアを進めるためには、医療とその前後である「予防（保健）」と「介護（福祉）」についても考えることが重要になります。

一志病院は、こうした包括的で全人的な医療を提供するために、地域という単位でその地に最適な保健・医療・福祉が連携したシステムづくりに、関係機関や住民の皆さんとともに取り組んでいきます。



在宅療養支援の実績

(単位：件)

		H 2 1	H 2 2	H 2 3	H 2 4 (10月末現在)
実施件数		4 3 6	9 8 8	2, 4 1 1	2, 0 5 4
内 訳	訪問診療	4 3 0	4 6 8	5 1 2	3 0 6
	訪問看護	6	2 4 3	1, 3 0 7	1, 3 4 0
	訪問リハ		2 7 7	5 9 2	4 0 8